

平成 22 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究 (B)  
 研究期間：2007～2009  
 課題番号：19320139  
 研究課題名 (和文) 東アジアにおける高齢者のセーフティネットワーク構築に向けての社会人類学的研究  
 研究課題名 (英文) SOCIAL ANTHROPOLOGICAL STUDY FOR ORGANIZING SAFETY NETWORKS OF THE ELDERLY IN EAST ASIA  
 研究代表者  
 伊藤 眞 (ITO MAKOTO)  
 首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授  
 研究者番号：60183175

## 研究成果の概要 (和文)：

東アジア各国にも日本の老人クラブに似た組織がある。しかし、高齢者の多くは、そうした組織にあまり依存せず、主体的に人生を享受している。一方日本の老人クラブの活動には、概して受け身的な傾向が認められる。高齢者が多様化する現在、トップダウン型の組織化は不適切である。高齢者を高齢者として枠づけない考え方が重要である。本調査研究は、高齢者に自由な場を提供することこそが組織の持続化につながることを提言する。

## 研究成果の概要 (英文)：

In East Asian countries, we can find senior citizens clubs which are similar to those in Japan. However, most of the elderly are not so dependent on such an organization, and are enjoying their life rather freely. On the other hand, a generally passive tendency is recognized in the activities of the senior citizens clubs in Japan. Such organizations of top-down style do not fit with changing lives of the elderly who have also diversified themselves today. What is important is not to put elder people in the flame of being old. We propose that to give a free arena to the elder people is the best way to keep their organization sustainable.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2008年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
年度			
年度			
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

## 研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学 文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学 高齢化 超高齢化 介護家事労働者

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の立案にあたっては、研究代表者が  
 参画した「過疎地コミュニティにおける老人

層の社会組織」(平成4～6年)、「健常高齢者の多寡を引き起こす文化特性の地域的変異に関する文化人類学的研究」(平成9～11

年)、さらに研究代表者が組織した学内プロジェクト『高齢化社会から熟年社会へ:都市形成過程における高齢者の多様化とそのセイフティネットワークの構築』(平成 18,19 年)などの先行研究があった。これらの調査研究を通じて、近年における高齢者による組織の形態・役割が変化しており、かつ高齢者像も多様化しているという認識を得られたことが、立案の背景となっている。

## 2. 研究の目的

日本は、1994 年に高齢化社会 (ageing society) から高齢化率 14%以上の高齢社会 (aged society) となり、2006 年には高齢化率 21%を越えるという、世界でも稀有な超高齢社会に達した。その間、東アジアを中心とした近隣諸国においても急速に高齢化が進行中である。韓国やシンガポールのように、高齢化の速度は日本よりも速い場合もあり、経済発展の著しい中国でも、高齢化が近い将来、経済発展の阻害要因になることが懸念されている。そうした国々において、高齢化という現象がどのように問題化され、さらにどのような取り組みがなされつつあるかについて、政策的観点のみならず、社会文化的コンテキストにも配慮しながら実態調査をおこなうことを目的とする。

## 3. 研究の方法

東アジア諸地域についておおまかに、6 地域を対象に、つぎの諸点について資料収集と聞き取り調査をおこなった。

- (1) 東アジア各国における高齢化の現状とその政策、
  - (2) 高齢者の組織やネットワークの有無、
  - (3) 高齢者組織と地域社会との関係、
  - (4) 加齢意識とその変化、及び加齢意識についてのジェンダー上の相違点。
  - (5) 定年退職、現役引退以後の人生に対する考え方、
  - (6) 高齢者とその介護者の現状、
- などであり、それぞれの地域事情に明るく、豊富な調査経験を有する者が実態調査をおこなうべく連携研究者を配置した。

## 4. 研究成果

(1) 高齢者の組織化において重要な役割をもつ諸団体の活動に焦点を当てた調査では、つぎの点が明らかになった。

a. 東アジアの国々における高齢者については、宗教団体、NGO、あるいは寺院、教会など宗教施設を基盤として組織化が進められており、しかも公的な組織以上に重要な役割を果たしている。

b. 高齢者組織における高齢者の活動については、宗教上の奉仕活動を除くと、レジャー中心である。但し、活動の場を提供するだけに限られたり、会員制にするなど、高齢者

の自主性が尊重される場合が多い。

c. 加齢意識とジェンダーの点では、一般に男性に比して女性の高齢者組織への参加がより積極的かつ顕著である傾向が認められた。

(2) 高齢者の介護及び介護者に対する考え方に関しては、政府によって家族主義が強調され、家族による介護が奨励されている国が多い反面、現実には海外からの家事介護労働者 (香港、シンガポール、台湾の場合) や地方出身者 (中国の場合) に依存する割合が高いことが明らかになった。一般に、家事介護労働者は住み込みを前提とするフルタイム労働者である。我が国においては一般的である「老老介護」の事例は、東アジア諸国のなかではむしろ特殊であることが判明した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

1. 伊藤 眞、2010、「海外における日本人社会の組織化と分節化—タイ、チェンマイを中心に—」『人文学報』第 423 号、査読有、pp. 1-19
2. 伊藤 眞、2009、「インドネシア、マレーシア、そしてシンガポール」『日本マレーシア研究会会報 JAMS News』43 号、pp. 2-3
3. 伊藤 眞、2009、「ボーダー・エコノミー—サバにおけるブギス移民の生活戦略—」『人文学報』第 408 号、査読有、pp. 31-47
4. 伊藤 眞、2009、「インドネシアにおける工業団地開発と女子労働—マカッサル工業団地を中心に—」『人文学報』第 393 号、査読有、pp. 15-29
5. 伊藤 眞・横田祥子、2007、「横浜中華街における高齢者のケア—婦人会活動を中心に—」『人文学報』387 号、査読有、pp. 61-76
6. 渡邊 欣雄 2008 「続・風水師と裏の市場経済—その 2 風水の市場経済・事例篇—」、『民俗文化研究』9 号、pp. 106-111
7. 渡邊 欣雄 2008 高齢者生活論——沖縄・久米島を例とした仕事理論仮説、人文学報 393 号、査読有、pp. 1-14
8. 渡邊 欣雄 2007 「資源にならない知識について」資源人類学 03、査読有、pp. 291-320
9. 鄭 大均、2009、「公園の満足していない人々—ソウル高齢者ノート—」『人文学報』408 号、査読有、pp. 17-30
10. 鄭 大均、2008、「なぜ帰化は在日のタブーとなったのか」『中央公論』123 巻 6 号、pp. 124-133
11. 鄭 大均、2008、「Zai-Nichi Koreans:

- Overcoming the Naturalization Taboo”, *Japan Echo*, August 2008, pp. 38-42
12. 高桑 史子、2008、「津波被災住民と仏教寺院—スリランカ南部海村の事例から—」『パース学仏教文化学』第22号 パース学仏教文化学会、pp. 117-122
  13. 何 彬、2010、「在日「老華僑」・「華人」の老後——横浜中華街を事例に」『人文学報』423号、pp. 21-42頁
  14. 何 彬、2010、「從蛇王節解析福建北部的崇蛇信仰（蛇王節から福建北部の蛇信仰を解析する）」中国語『東亞漢文学与民俗文化論叢（一）』（王三慶・陳益源主編）台湾楽学書局、査読有、pp. 139 - 152
  15. 何 彬、2007、「生活表象と文化のアイデンティティ——日本新華僑華人群体試析」『中山大学学报 社会科学版』第47卷第3期、査読有、pp. 13-17
  16. 何 彬、2007、「論日中正月食物的象徴意義」2007年東亞漢文学與民俗文化國際學術研討會論文集」、pp. 291-310
  17. 何 彬、2007、「論日中正月食物的象徴意義」『台湾成功大学中文學報』第18期、査読有、pp. 177-196
  18. 綾部 真雄、2009、「マイノリティと権力：タイ北部山地民リスの村長とその『尖鋭的分節』についての覚え書き」『人文学報』408号、査読有、pp. 49-74
  19. 綾部 真雄、2008、「エスニック・セキュリティ—タイ北部リスにみる内発的安全保障のかたち—」『社会人類学年報』34巻、査読有、pp. 51-91

[学会発表] (計 12 件)

1. Makoto ITO “A Birth of transgender in South Sulawesi”, International Conference of Toraja Culture and Multiculturalism, 2009. 7月23日, The Heritage Hotel, Rantepao, Indonesia.
2. 伊藤 眞 「趣旨説明：日本の高齢者生活と組織化」2009年7月3日, 清華大学・首都大学東京高齢者問題共同討論会, 清華大学老年学研究中心. 北京、中国
3. 渡邊 欣雄 「老人工作理論(高齢者仕事論)」2009年7月3日, 清華大学・首都大学東京高齢者問題共同討論会, 清華大学老年学研究中心. 北京、中国
4. 渡邊 欣雄 「社会学的人類学研究としてのコミュニティ・スタディー—北京のコミュ

- ニティ創りをどう理解するか—」第131回東北地区研究懇談会(東北人類学談話会)2009年7月13日, 東北大学東北アジア研究センター
5. 渡邊 欣雄 講演「高齢者生活の現代民俗学的研究—沖縄を例として—」, 『伝承文化学会』, 2008年6月28日, 國學院大學
  6. 渡邊 欣雄 「高齢者生活論」、223回明治大学社会構造研究会, 2008年7月11日, 明治大学
  7. 渡邊 欣雄 講演「序説・高齢者仕事論」首都大学東京八丈島公開講座「世界の高齢者生活」2008年10月25日, 八丈島保健福祉センター
  8. 渡邊 欣雄 講演「高齢者生活—日本と台湾の比較—」、玉蘭荘(デイケアセンター)、2008年11月3日台湾台北市
  9. 高桑 史子 「内戦復興と津波災害復興のスリランカから—新たな社会組織。社会関係構築の可能性と人類学者の役割—」南山大学人類学研究所60周年記念シンポジウム「21世紀アジア社会の人類学：回顧と展望」2009年12月19日, 南山大学
  10. 何 彬 「中元節(お盆)の比較民俗学的研究」, 「2009年閩南文化国際シンポジウム」2009年10月22日、台湾・成功大学
  11. 何 彬 「無形文化財と文化伝承図について」国際シンポジウム2008年10月23日, ベトナム社会科学院
  12. 何 彬 「日中正月の食物のシンボリックについて」 「2007年閩南文化国際シンポジウム」2007年3月23日, 台湾・成功大学
- [図書] (計 22 件)
1. 伊藤 眞 (編)、2010、『東アジアにおける高齢者のネットワーク構築に向けての社会人類学的研究』、首都大学東京都市教養学部社会人類学、全233頁
  2. Makoto ITO, “Peranakanization, Indonesianization, and the Cultural Citizenship Among the Ethnic Chinese in an Indonesian Town: The Case of Makassar”, Toh Goda (ed.)

- Urbanization and the Formation of Ethnicity in Southeast Asia.*, New Day Publishers, 2009, pp.176-192
3. 伊藤 眞編著、2008、『高齢化社会から熟年社会へⅡ—都市形成過程における高齢者の多様化とそのセーフティネットワークの構築』、平成 19 年度傾斜的研究費研究成果報告書（研究代表者伊藤眞）、全 233 頁
  4. 伊藤 眞、2007、「結婚の絆、家族の絆」椎野若菜編『やもめぐらし』、明石書店、pp. 314-331
  5. 伊藤 眞編著、2007、『高齢化社会から熟年社会へ—都市形成過程における高齢者の多様化とそのセーフティネットワークの構築』、平成 18 年度傾斜的研究費研究成果報告書（研究代表者伊藤眞）、首都大学東京
  6. 渡邊 欣雄、岡野宣勝、佐藤壮広、塩月亮子、宮下克也共編 2008『沖縄民俗辞典』、吉川弘文館、全 656 頁。
  7. 鄭 大均、2009、「序言」李榮薫『大韓民国の物語』文藝春秋社、1-8 頁
  8. 高桑史子、2010、「石垣島の多様な高齢者たち—シマンチュとナイチャーがつくる八重山世界—」『東アジアにおける高齢者のセイフティ・ネットワーク構築に向けての社会人類学的研究』（伊藤眞代表平成 19 年度—平成 21 年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（1））研究成果報告）、28-38 頁
  9. 高桑 史子・四條真也・中川摩耶・吉田佳世、2010、『伊原間にて—石垣島北部地区の現在—』首都大学東京社会人類学教室、全 41 頁
  10. 高桑 史子、2010、『瀬々野浦・内川内の民俗—薩摩川内市下甌町瀬々野浦地区・内川内地区』首都大学東京社会人類学教室編、全 61 頁
  11. 高桑 史子・小西公大・梅村絢美、2009、『泉津の民俗—伊豆大島泉津地区調査実習報告書』（特徴ある学外・体験型教育プログラム開発・実施のための全学的研究）首都大学東京社会人類学教室、全 63 頁
  12. 高桑 史子、2009、『伊豆利島調査報告—過疎・高齢化する東京における文化資源開発の可能性に関する基礎的研究』（平成 20 年度首都大学東京傾斜研究成果報告書）、全 63 頁
  13. 高桑 史子、2008、『スリランカ海村の民族誌 開発・内戦・津波と人々の生活』明石書店、全 508 頁
  14. 高桑 史子、2007、『2004 年インド洋津波災害被災地の現状と復興への課題 国立民族学博物館調査報告 73』（共著）、国立民族学博物館、全 150 頁
  15. 何 彬、2010、「上海市のコミュニティ養老システムの施策と現状—「在宅養老」と「施設養老」の間—」『東アジアにおける高齢者のセイフティ・ネットワーク構築に向けての社会人類学的研究』（日本学術振興会科学研究費補助金「基盤研究（B）（1）」）（代表者 伊藤眞 平成 19—21 年度研究成果報告書）、39 - 52 頁
  16. 何 彬、2009、「泉州普渡の比較民俗学的研究」『2009 閩南文化国際シンポジウム論文集』 国立成功大学中文系・金門県文化局共同出版、605-615 頁
  17. 何 彬、2009、「現代の表象と伝統の変遷—北京の墓地と葬法に関する考察」『革命の実践と表象—現代中国への人類学的アプローチ』（韓敏編著）風響社、183-214 頁
  18. 何 彬、2007、「「葉落帰根」から“現地生根”の生活へ—横浜中華街の華僑の老後生活の傾向」『高齢化社会から熟年社会へ—都市形成過程における高齢者の多様化とそのセーフティネットワークの構築』平成 18 年度傾斜的研究費（都市形成に関わる研究）研究成果報告書、31-40 頁
  19. 綾部 真雄、2009、『「イー・ラー」の義務の行方：タイ北部チェンマイ地域における地域社会の変容と高齢者扶養』『科学研究費基盤研究（B）報告書 東アジアにおける高齢者のセイフティネットワークの構築に向けての社会人類学的研究（平成 19 年度—21 年度）』
  20. 綾部 真雄、山上 亜紀編集、2008、『さらばモンゴロイド—「人種」に物言いをつける—』（神部武宣著）生活書院、全 172 頁
  21. 綾部 真雄、2007、阿部年晴、綾部真雄、新屋重彦編『辺縁のアジア—ケガレ—』（共編著）明石書店、全 338 頁
  22. Masao, Ayabe, 2007. “Media and Marginalized Ethnic Minorities: Difficulties in Destigmatizing Unfavorable Collective Image Cast Upon Highland Peoples in Northern Thailand”, In K. Suzuki ed. *Nation States and Media: The Question of National Identity*, pp. 264-300, Akashi, Tokyo: Akashi Shoten.
6. 研究組織  
 (1) 研究代表者  
 伊藤 眞 (ITO MAKOTO)  
 首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授  
 研究者番号：60183175

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

渡邊 欣雄 (WATANABE YOSHIO)

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：90103209

鄭 大均 (TEI DAIKIN)

首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授

研究者番号：20274996

高桑 史子 (TAKAKUWA FUMIKO)

首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授

研究者番号：90289984

何 彬 (KA HIN)

首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授

研究者番号：50305405

綾部 真雄 (AYABE MASAO)

首都大学東京・大学院人文科学研究科・准教授

研究者番号：40307111